2021年5月9日　説教「父と母を敬え」

出エジプト20:、エペソ6:~3、マタイ10；37~38

創世記の学びを終え、今朝は母の日を覚えて、聖書から学んでいきます。

1．出エジプト記20章12節

①**父と母を**（12）**「あなたの父と母を敬え。」**この戒めは、モーセを通して与えられた十戒の第五戒になります。「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。」（**20:2**）で始まる十戒は **1～4** 戒までが、神との関係についての戒めです。そして、第 **5** 戒から **10** 戒までは、人間との関係における戒めです。ということは、人間関係における戒めの最初にこれがあるわけで、重要であることがわかります。「あなたの父と母を敬え」という戒めは、地上に生きる者たちが、その生をいただくにあたっての、存在の根である父と母を大切にするということです。その親が尊敬できる存在であるか否かということはもう一つ問題です。基本的に父と母を尊敬せよということです。神の御心に従って、あなたが大地に産み出されるにあたって、父と母は確かに神によって用いられたのですから敬うべきなのです。

②**主が与えてくださる地で**（12）**「あなたの神、主が与えようとしておられる地で」**主なる神が与えようとしておられる地とは、狭い意味ではイスラエルの民がこれから生きようとする約束の地のことです。しかし、それは神の民である者達、すなわち私達を含みます。一人一人に与えられている国、地域、場所、職務、家庭、そして教会も含まれるでしょう。

③**齢が長くなる**（12）**「あなたの齢が長くなるためである。」**父と母を敬うことは、人が人との関係を行っていくにあたっての基本的な教えであり、戒めです。そして、信仰をもって、この戒めを守って行く時に、付随的に与えられていくことは、私達の地上における命が長くなることだと約束されます。長命は主からの祝福の一つなのです。しかし、短命は祝福されていない、とすることが誤りであることに間違いありません。イエス・キリストの地上生涯が **33** 年程であったことからしてそれは明らかです。

2．エペソ人への手紙6章1～3節

①**両親に従え**（1）**「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。」**エペソ人への手紙は、使徒パウロがエペソにある教会に送った書簡で、教会論が述べられています。4章以下には具体的な勧めがなされていますが、ここには教会の秩序を念頭におきながら、両親への勧めがなされます。子供達の両親に対してあるべき姿勢は、従うことであると述べられます。父なる神に従うことに基づき、両親に従うことには重要性があるということです。それを、パウロは「これは正しいことです。」と言っているのです。

②**第一の戒め**（2）**「『あなたの父と母を敬え。』これは第一の戒めであり、**

約束をともなったものです。すなわち」そして、これは上で学んだ十戒の引用です。これを第五戒ではなく、第一の戒めとしているのはどうしてでしょう。それは、既に学んだように、十戒のうちの人間関係への戒めとしては最初にくるものだからです。そして、それには約束が伴うというのは、次に出て来るフレーズにあり、十戒のなかでも約束されていたものでした。

③**しあわせになり**（3）**「『そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする』という約束です。」**その約束とは、「あなたはしあわせになり、地上で長生きする」と記されています。十戒のほうでは「しあわせになり」という部分はありませんでした。解釈が含まれた引用と言って良いでしょう。両親に従っていくならば、あなたは幸せになるよ、そして地上では長く生かされることになるようという約束です。実際的な面から言っても、親との関係は、人間として最も基礎にある関係です。親が子を愛し、子も親の愛を受けて喜ぶがゆえに平安に生きるわけです。そこに人間の罪が入り込むことによって、その関係がおかしくなるわけです。そこで、改めの主にあって、両親に従うように導かれる時に、人には幸せと命の長さがもたらされるのです。

３．マタイの福音書 10 章 37～38 節

①**わたしよりも父母を**（37）**「わたしよりも父や母を愛する者はわたしにふさわしい者ではありません。」**さて、イエス・キリストは家族との関係をどのように言われているでしょうか。ここにおいて、主なるキリスト、自分よりも父や母を愛する者は、キリストを信ずる者として十分ではないと言われるのです。父や母を愛することが否定されているのではありません。しかし、十戒においても、第一から第四戒までに神との関係における正しい関係に基づいた上で、人間関係の戒めがあったように、キリストとの正しい関係があればこそ、父母との麗しい関係がもたらされことが教えられるのです。

②**わたしよりも息子、娘を**（37）**「また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。」**その原則は、息子、娘との関係においても同じです。子供への愛は深いのは親の常ですが、キリストとの関係よりも子供との関係を上回ることを問題だされるのです。キリストへの愛よりも、子どもへの愛の方がまされば、むしろ子どもとの関係に問題が生じやすいのです。自己中心になるからです。

③**自分の十字架を負って**（38）**「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしに相応しい者ではありません。」**そこで、主なるキリストは言われます。私達の罪の身代わりとしてキリストが十字架を負ってくださったことを、まずは思うのです。その上で、自分にも与えられた十字架を負って、キリストについてきなさいと教えられるのです。いささか厳しいお言葉ではありますが、何が第一であることが問われています。

《結論》

母の日というのは、キリスト教会から始まりました。教会行事として、5 月第二日曜日に行われています。今朝開いた「あなたの父と母を敬え」（出エジプト 20 章 12 節）に基づいて、母に感謝する日として広く覚えられています。1908 年 5 月 12 日にアメリカのウェスト・ヴァージニア州ウェブスター教会で、アン・ジェーヴィス婦人の娘アンナが母のために記念会を持ち、母の好きだったカーネーションを贈ったことから始まりました。これが日本やアメリカの母の日に受け継がれているのです。

あなたにとって、母親とはどのような存在でしょうか。多くの人にとって、母はかけがいのない存在であると思います。この者にとって、母はどんなことでも受け入れてくれる存在でありました。丸ごと受け止めてくれたのが母でありました。召されるその日に、病床で洗礼を受けましたが、息子の信ずるキリストを自分も受け入れていきたいという思いがあったのだと思います。それだけに、天に送った時には、忍従の人生だった母のことを思ってとめどなく涙が流れたことを思い出します。今朝、「あなたの父と母を敬え」という御言葉とともに、思い出して感謝しましょう。ご健在であれば母上を敬い「お母さん、ありがとう」と伝えたいと思います。その心を、なんらかのかたちで表せたらと思います。それは、エペソ人への手紙にもあるように、正しいことなのです。

しかし、このことが教会において勧められる限りにおいては、私達が母への敬いの前提として、父なる神、主イエス・キリストへの信仰と敬愛を明確にしたいのです。今朝はイエス様の厳しい教えを学びましたが、そのことがなければ、母への愛、肉親への愛も何らかのかたちで歪むことになるからです。自己中心で、自己満足になってしまう可能性があるからです。私達人間は創造主なる神によって造られた存在であるのですから、まことの主をまずあがめることを忘れないようにしたいのです。

4,5 世紀の教父アウグスティヌスは母モニカの絶え間ない祈りが用いられて、不信仰から目覚めさせられました。その母モニカは主を仰ぎつつ両親を愛する心をも与えられていた人だと思います。主への信頼、主との密接な関係こそが、私達の母を含む肉親との関係回復のはじめなのです。また、母であるあなたも、キリストを第一にして、子

達と相対することが求められます。

今朝は母への敬いの原則を学びましたが、これは父に対してもあてはまります、子どもや親族の誰に対する対応においてもあてはまります。まず主を求め、愛することを第一とするところに、備えられてくるのです。

さらにいうと、「母なる教会」という考え方があります。キプリアヌスという神学者（三世紀）は「教会を母として持たない者は、神を父として持つことができない。」言いました。永遠の教会の現れである地上の教会には「母」の役割を与えられているのです。小さく、弱く、未熟な教会であっても、母の役割が授けられているのです。十字架と復活の福音の上に立つ教会に、聖霊が注がれる時に、「母」なる役割が備えられていくのです。私達の教会も「母なる教会」として成長していくことができるように祈っていきましょう。

「恵みのこの日に、母の愛を、心の限りに、たたえ歌わん」（讃美歌４３６）

あらためて主を仰ぎつつ、「お母さん、ありがとう！」